

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

小学校6年生・中学校3年生を対象として平成29年4月18日に実施された全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。今後の本校としての取組についてご説明します。

1. 教科学習状況調査の結果から

【平均正答率】

	国語A 主として知識	国語B 主として活用	算数A 主として知識	算数B 主として活用
荏田東第一小学校	77.0%	59.0%	82.0%	50.0%
神奈川県（公立）	73.0%	57.0%	77.0%	46.0%
全国（公立）	74.8%	57.5%	78.6%	45.9%

国語・算数の調査の結果（平均正答率％）は、全調査（主として知識・主として活用）とも、国の平均正答率を1.5～4.1％上回っていました。

【国語】『国語A：主として知識』に関する設問では、国の平均正答率を2.2％上回っていました。領域別平均正答率については、「書くこと」領域の平均正答率が高く、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域の平均正答率がやや低い傾向にありました。『国語B：主として活用』に関する設問では、国の平均正答率を1.5％上回っていました。領域別平均正答率については、「読むこと」領域が国の平均正答率を4％上回っていました。

【算数】『算数A：主として知識』に関する設問では、国の平均正答率を3.4％上回っていました。領域別平均正答率については、「量と測定」領域の平均正答率が高い傾向にありました。『算数B：主として活用』に関する設問では、国の平均正答率を4.1％上回っていました。領域別平均正答率については、「図形」の平均正答率が高い傾向にありました。

2. 質問紙調査の結果から

生活面に関する設問では、ほとんどの児童が「朝食を毎日食べている。」と回答していました。「授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている。」と回答した児童は95.5％でした。「友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」と回答した児童は95.5％でしたが、「友達の前で自分の考えを発表することが得意だ。」と回答している児童は62.7％でした。国語・算数いずれの教科の学習も、将来役に立つと考えている児童がほとんどでした。

3. 学校としての今後の取組

国語については、目的や相手を意識した交流の場の工夫や話し合いを深めるための話型や語彙の指導に努め、学び合いの質の向上を図るとともに、児童の伝え合う力の育成を進めていきます。また、話し合い活動のスキルを身に付け、自分の思いを表現できるように指導していきます。算数については、児童が主体的に学習に取り組めるよう、課題解決的な学習を心がけ、知識の確実な定着や思考力・表現力の向上を目指していきます。また、少人数指導等を有効に取り入れ、個に応じたきめ細かな指導を進めていきます。